

恵泉教会木曜祈祷会

リジョイス7月2日 通読：列王記下 6章

1. 列王記下6章の背景と文脈

この章は、預言者エリシャの働きを通して、神が個人の小さな悩みから国家の危機まで、あらゆる領域の主であることが示されています。

- **水に浮く鉄の斧（1～7節）**： 預言者の仲間たちが新しい住まいを建てるために木を伐採していた時、一人が「借り物」の鉄の斧をヨルダン川に落としてしまいます。彼が「ああ、御主人様、あれは借り物だったのです」と叫ぶと、エリシャは木切れを投げ込み、重い鉄を水面に浮かせました。神は、私たちの日常の些細な失敗や経済的な不安（借り物をなくした焦り）にも目を留め、介入される方です。
- **見えない「火の馬と戦車」（8～23節）**： アラムの王はイスラエルを攻撃しようとしませんが、エリシャがその戦略をすべて見抜いていたため、大軍を送ってドタンの町にいるエリシャを包囲させました。朝、若者（エリシャの従者）が町を包囲する軍勢を見て「ああ、御主人様、どうすればよいのでしょうか」と絶望します。しかしエリシャは「恐れるな。わたしたちと共にいる者は、彼らと共にいる者より多い」（16節）と告げ、「主よ、どうぞ彼の目を開いて、見えるようにしてください」と祈りました。すると若者の目は開かれ、山にエリシャを囲む「火の馬と戦車」が満ちているのを見ました。
- **敵への恩寵と、サマリアの絶望（24～33節）**： エリシャは目が見えなくなったアラム軍をサマリアに誘導しますが、彼らを殺すのではなく、盛大な宴会を催して国へ帰らせました。これによってアラムの部隊はしばらく侵入しなくなります。しかし後日、アラム王ベン・ハダドがサマリアを大軍で包囲し、町は自分の子供を食べるほどの凄惨な飢饉に陥ります。イスラエルの王は自分の不信仰を棚に上げ、この絶望を「主が下されたもの」としてエリシャを殺そうとします。

2. 列王記下6章の中心主題

この章には、「霊的な視点の回復（目を開かれること）」と「暴力の連鎖を断ち切る恩寵」という主題が含まれています。

- **「見える現実」と「見えない真実」**： 従者の若者は、目に見えるアラムの大軍（現実の脅威）だけを見てパニックに陥りました。しかしエリシャは、肉眼ではなく霊の目で、自分たちを取り囲む神の軍勢「火の馬と戦車（見えない真実）」を見ていたため、全く揺るぎませんでした。信仰とは、問題がなくなることではなく、問題をはるかに上回る神の臨在を見る「霊の目が開かれること」です。
- **悪を善で打ち勝つ**： 敵の軍勢が完全に無防備になった時、イスラエルの王は「討ちましょうか」と尋ねました。しかしエリシャはそれを禁じ、パンと水を与えてもてなし、帰らせました。武力（剣と弓）による報復は一時的な解決にしかありませんが、敵に「圧倒的な恵みと食事」を与えることは、敵意そのものを武装解除させ、平和をもたらします。
- **極限状態での責任転嫁**： サマリアの飢饉という極限状態に置かれた時、イスラエルの王は自らの罪を悔い改めるのではなく、「この災いは主が下されたものだ。これ以上、何を主に期待

できようか」(33節)と神を恨み、預言者に責任を転嫁しました。絶望の淵に立たされた時、人間の本性と信仰の真価が問われます。

3. 黙想と適用のための質問

①「目に見える脅威」に圧倒されていませんか？

若者は、町を包囲する敵の軍勢を見て「どうすればよいのでしょうか」と絶望しました。

(今、あなたの生活を包囲している問題(病気、経済、人間関係、将来への不安)ばかりを見つめ、パニックになっていませんか。「主よ、どうぞ私の目を開いて、私と共にいる見えない神様の軍勢を見させてください」と祈り、霊的な視力を回復させましょう。)

②自分を攻撃する者に対して「宴会」を用意できますか？

エリシャは、自分を捕らえて殺そうとした敵軍に対して、剣を向ける代わりに盛大な宴会を開いて帰らせました。

(あなたを批判する人、敵対する人に対して、同じように怒りや冷たさで報復しようとしていませんか。「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」という御言葉に従い、敵対する者のために祈り、恵みを示す勇気を求めていますか。)

③理不尽な苦難の中で、誰を責めていますか？

サマリアの王は、凄惨な現実を前にして神様を恨み、エリシャに怒りの矛先を向けました。

(状況が極限まで悪化したとき、「なぜ神様はこんなことを許すのか」「あの人のせいだ」と責任転嫁していませんか。絶望の中で神様を見限るのではなく、自分の心のあり方を点検し、なおも神様の救いの介入を待つ信仰に留まっていますか。)

4. 祈り

目に見えない御力をもって私たちを守られる天のお父様、

列王記下6章を通して、目に見える問題がどれほど大きく絶望的に見えても、私たちと共にいるあなたのご存在がはるかに大きいことを教えられ、感謝いたします。

主よ、私は時としてエリシャの従者のように、自分を取り囲む問題や敵対する力ばかりに目を奪われ、「ああ、どうすればよいのでしょうか」と恐れおののいてしまう弱い者です。

どうか今、私の肉の目を閉じ、霊の目を開いてください。私と私の愛する者たちの周りに、あなたの火の馬と戦車が満ちて守ってくださっているという、見えない霊的真理をはっきりと見させてください。

また、私を攻撃し、敵対してくる者に対して、怒りや報復で返すのではなく、キリストが私を赦してもてなしてくださったように、善と恵みをもって返すことができるよう、私の心を広く、新しくしてください。

絶望の淵に立たされるような苦難の日であっても、決してあなたを恨むことなく、あなたに信頼し続ける確かな信仰をお与えください。

すべての脅威から私たちを守り、悪を善に変えてくださる主、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。